


第70回国立大学病院看護部長会議：実践報告

研究ネットワークの構築 ～3大学で共同研究に取り組む～ (高知大学・愛媛大学・香川大学)

 香川大学医学部附属病院
豊嶋 克美



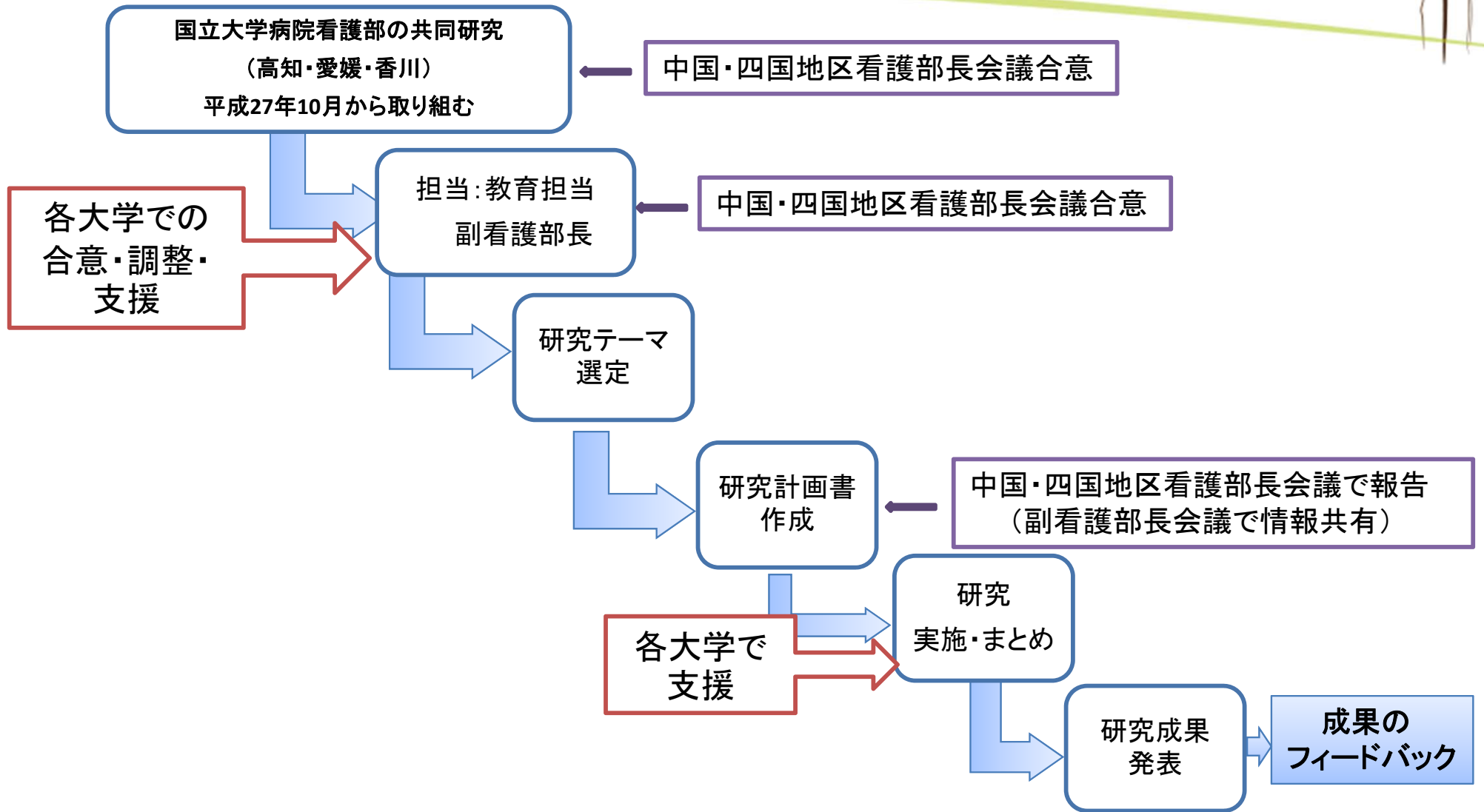
取り組みの経緯



概要：国立大学病院看護部の強みを活かし、教員や多職種とのネットワーク、地域医療施設や企業とのネットワーク、国立大学病院看護部のネットワークの構築を提言した

そのネットワークの一つである国立大学病院看護部のネットワークのモデル事業として、中国・四国地区3大学(高知・愛媛・香川)において共同研究に取り組んだ(平成27年10月～)

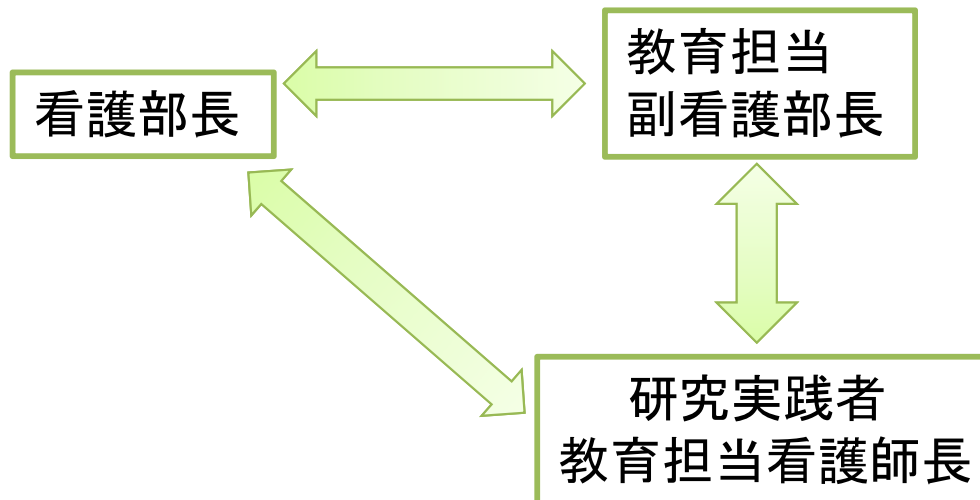
フロー図



研究ネットワークプロジェクト設立(平成27年10月19日)



高知大学, 愛媛大学, 香川大学



- 研究実践者
- 高知大学
教育担当看護師長
 - 愛媛大学
教育担当副看護部長
 - 香川大学
教育担当副看護部長

研究の進め方: 研究実践者が研究を進めていき, 主にメールで情報共有を行う
各大学持ち回りで会議を開催する

第1回 研究ネットワークプロジェクト会議 H27・10・19

場所:高知大学医学部附属病院



議事

1.研究ネットワークの取り組みについて説明

高知大学看護部長より経緯の説明があり,この取り組みを「研究ネットワークプロジェクト」とすると指示があった

2.研究の進め方:主としてメール会議で,研究実施者が研究を進めていく

3.研究テーマの検討

1)テーマ選定:共通課題「中途採用看護職員の定着」

2)研究テーマ「中途採用看護職員の定着」に関して各施設の現状を意見交換

3)研究テーマの絞り込みと研究成果の活用

4)研究協力依頼施設について

5)文献レビュー

第1回 研究ネットワークプロジェクト会議 H27・10・19

場所:高知大学医学部附属病院



今後のスケジュール

平成27年 10月	テーマの選定 文献レビュー	平成28年 6月	分析
11月	研究計画書の作成 質問紙項目の洗い出し	7月	考察
12月			
平成28年 1月	質問紙作成 計画書の仕上げ	8月	抄録作成
2月	倫理審査の受審	9月以降	中国四国看護部長会議で報告
3月		平成29年度 以降	関連学会で発表
4月	質問紙配布		
5月	回収・集計		

メール会議:

文献リストから、文献を選定し、文献レビューを行う(文献を分担)

文献の要旨をまとめ・共有し、研究計画書にとりかかる(次回会議:1月香川大学にて)

第2回 研究ネットワークプロジェクト会議 H28・1・21

場所:香川大学医学部附属病院



議事

1.3大学の過去5年間の中途採用看護職員について情報交換

中途採用看護職員の採用者数や定着率に大学間で差があった

研究対象施設は中国・四国地区国立大学病院9施設とした

2.研究目的/研究課題の明確化

1)テーマ:中国・四国地区国立大学病院の中途採用看護職員の職場適応に関する研究

-あるべき教育支援体制の構築に向けて-

2)研究目的:中途採用看護職員の職場継続を支える要因と受け入れ側(組織)の教育

支援体制の実態を明らかにすることである

3)用語の定義:中途採用看護職員

看護師・助産師としての勤務経験があり、転職により自施設に就職した看護師・助産師、もしくは一旦離職後に自施設に再就職した看護師・助産師、但し採用時期、雇用形態は問わない

第2回 研究ネットワークプロジェクト会議 H28・1・21

場所:香川大学医学部附属病院



3. 研究枠組みの作成

- ・研究枠組みとして、結果から示唆を導く道筋とそのための調査項目の大枠を図式化することに取り組んだ

4. 研究計画書の構成・分担

- ・研究計画書は3大学で分担し作成し、メール会議にて情報共有する事となった

5. 今後のスケジュール

- ・2月～5月:研究計画書の完成, 質問紙作成
- ・6月 倫理審査の受審

第3回 研究ネットワークプロジェクト会議 H28・6・2

場所:愛媛大学医学部附属病院



議事

1. 研究計画書の作成

研究計画書(案)を修正検討

2. 質問紙の作成

構成要素の抽出, 整理

対象者:中途採用看護職員, 指導者, 看護師長, 教育担当副看護部長の構成要素(案)をもとに, 抽出, 整理を実施した

3. 今後のスケジュール

7月質問紙のプレテスト実施

8月倫理審査受審(高知大学医学部倫理審査委員会)予定

愛媛大学・香川大学は研究協力大学として, 各々の倫理審査を受審

10月データ収集

第4回 研究ネットワークプロジェクト会議 H28・10・5-10.6

場所:高知大学医学部附属病院



議事

1. 研究計画書の検討

・研究対象の決定

各施設あたり、1年間で15～20名程度の中途採用看護職員が入職すると見込み、対象者数を決定した

・データ収集

研究対象者へのアクセスと質問紙回収方法について決定した

2. 質問紙の洗練化

3. 今後のスケジュール

・11月高知大学医学部倫理審査委員会受審

10月 中国四国国立大学看護部長会議において、高知大学楠瀬看護部長が、研究計画書、質問紙等を説明し、協力を依頼した

平成29年1月、質問紙配布予定とした

研究計画書

中国・四国地区国立大学病院の中途採用看護職員の職務継続に関する研究 —あるべき教育支援体制の構築に向けて—



I. 研究目的

- 中途採用看護職員の職務継続を支える要因と受け入れ側(組織)の教育支援体制の実態を明らかにすることである

II. 用語の定義

- 中途採用看護職員: 看護師・助産師としての勤務経験があり, 転職により自施設に就職した看護師・助産師, もしくは一旦離職後に自施設に再就職した看護師・助産師, ただし採用時期, 雇用形態は問わない
- 職務継続: 看護職員としての勤務を続けていくという本人の意思
- キャリア形成: 主体的に外部から必要なものを取り入れ, 職業を通して自分の価値や存在意識を見出す生き方の構成そのもののプロセス



Ⅲ.研究方法

1. 研究デザイン

量的記述的研究

2. 研究対象

中国・四国地区国立大学病院に勤務する以下の職員

- 1)教育担当副看護部長 9名
- 2)中途採用看護職員配属部署の看護師長 114名
- 3)平成26年度・27年度中途採用看護職員の指導者 136名
- 4)平成26年度・27年度中途採用看護職員 150名

3. 調査期間 平成29年 1月～3月

4. データ収集

1) 研究対象者へのアクセスと質問紙回収方法

- (1) 研究者の所属施設の看護部長より、対象施設の看護部長へ研究協力について依頼し、研究協力の了承が得られれば、研究者は研究依頼文書を対象施設へ送付する
- (2) 研究へ協力する施設の看護部長は、承諾書に署名し、返信用封筒で研究者へ返送する 研究者へ承諾書が届いたら、依頼文、質問紙、回収用封筒を対象施設へ送付する 対象施設が研究に協力しない場合は、研究依頼文書一式を返信用封筒で研究者へ返送する
- (3) 対象施設の看護部長は、教育担当副看護部長へ書類一式(対象者用研究協力依頼文、対象者用質問紙の配布・回収手順書、対象者用質問紙)を渡す
- (4) 対象施設の教育担当者副看護部長は、質問紙の配布・回収手順書に従い、対象者へ封筒に入った研究協力依頼文と質問紙を配布する
- (5) 研究対象者は、記入した質問紙を封筒に入れ、回収用封筒へ投入する。対象施設の教育担当副看護部長は、回収用封筒を密封し、ポストへ投函する





5. 調査内容

調査項目は、文献検索により抽出した用語を集約して作成した

1) 教育担当副看護部長

組織の現状3項目，組織の教育体制5項目

2) 中途採用者配属部署の看護師長

部署教育の現状5項目，中途採用看護職員への期待6項目，支援上の困難6項目

3) 平成26年度・27年度中途採用看護職員の指導者

フェイスシート3項目，中途採用看護職員への期待6項目，支援上の困難6項目

4) 平成26年度・27年度中途採用看護職員

フェイスシート5項目，転職前の動機12項目，転職前の期待11項目，就職後の支援への要望11項目，就職後の困難について11項目，就職後効果的な支援について20項目

6. データ分析 Microsoft Office Excel 2013とIBM SPSS ver.20.0にて分析する。
各項目間の比較(平均値と標準偏差を算出し，比較する 必要に応じて， X^2 検定，F検定を用いる)

質問紙配布→回収→データ集計・解析→論文作成



- 平成28年12月 高知大学医学部倫理審査委員会より
審査結果決定通知書・承認
- 平成29年1月 中国・四国国立大学9大学へ質問紙配布
高知大学→各大学:教育担当副看護部長
平成29年2月 2月28日質問紙回収
各大学:教育担当副看護部長→高知大学(原田看護師長)

平成29年3月～4月:データ集計・解析

平成29年5月～7月:解析結果→担当を決め考察→メールで情報共有→論文作成

第5回研究ネットワークプロジェクト会議 H29.7.31.

場所:愛媛大学医学部附属病院



議事

1. 論文:考察・結語(案)検討

完成 ↓

テーマ:中国・四国地区国立大学病院の中途採用看護職員の職務継続に関する研究
—あるべき教育支援体制の構築に向けて—

平成29年10月中国・四国地区看護部長会議にて報告・・・承認を得た

平成30年度 下記の学術集会にて発表

***日本看護学会, 看護教育(広島:8/16-17)**

①「中途採用看護職員を受け入れる組織の教育体制の実態」

②「中途採用看護職員の職務継続を支える要因」

***日本看護管理学会(神戸:8/24-25)**

③「就職後支援に対する中途採用看護職員の要望と看護師長・指導者の期待」

共同研究実施後の評価



- 研究実践者の教育的背景が同一であったので、意思疎通が図りやすく研究テーマの絞り込みがスムーズであった
 - 通常業務と研究は、時間的な余裕がなく、会議以外は、ほぼ時間外を使っでの作業となった
 - 3大学で会議を開催したことは、検討事項・作業がはかどり、気分転換にもなった
 - 当初の研究スケジュールに反し、3年目に成果発表となった・時間を要した
 - メール会議は、タイムリーな返答を得られにくかった
 - 3大学の研究実践者は、同志としての繋がりが強固となった
 - 得られた成果を活かして、中途採用看護職員の教育・支援体制のあるべき姿の構築に繋げることが肝要である……
- 継続検討事項